



院長

村田 昌彦(むらた まさひこ)
 1962年生まれ
 1991年富山医科薬科大学医学部卒
 1996年同医学部大学院卒
 2014年国立病院機構北陸病院精神科部長
 2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院院長就任。
 日本司法精神医学会評議員。



診療科

- 一般精神科
- アルコール・薬物依存症 専門外来
- こころのリスク外来

病床数
176床

- 精神科病棟 158床
- 医療観察法 18床
- 認知症ユニット

病院理念

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

《 榊原病院の風を感じて 》

看護部長 佐藤 紳一

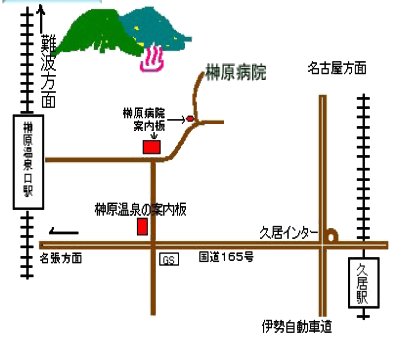
平成29年4月に東北から副看護部長に昇任し赴任しました。前村上院長から、新採用者も多く新たな風が吹きますと辞令交付式のお話がありました。言葉の意味をあまり深く理解する暇もなく、副看護部長の業務に入りました。私自身、北風小僧として若輩ではありましたが、何か力になればと思いつつも東北に帰る機会を一年、一年の思いで過ごして来ました。榊原病院は「再生への道五年計画」をホップ、ステップと病院の医療改革と病棟改修という目標に向かってジャンプしていく時期に入っていました。

榊原病院は立地条件と知名度の低さなどからさまざまな困難を抱えていた病院で、病院再生に向けどのように治療環境を高めていくのかという課題がありました。前村上院長の力はとても大きく榊原病院再生のためには人を呼び、人を育て、人とつながり、情報を発信し、風を待つのではなく、風を起こすことが重要なことであるということ学びました。

看護部も精神科専門性が求められる状況で、新人の入職者も増え看護部としても今まで以上に看護師の教育に力を入れる必要があります。そんな思いを抱き副看護部長として、風を呼ぶ一員であるべく目標達成にむけ今以上看護部の底上げのために努力していかねばという思いでいました。

そんな時、また風が吹きました！令和を迎える時期に副看護部長から看護部長という重責をもつ立場になりました。昨年から新院長となった村田院長のもと全員で今まで積み上げてきた榊原病院改革の取り組みから小規模、多機能、高規格の病院となるべく、看護部も一丸となって協力していきたいと思えます。

「風を呼び 風に舞い 風と化すとき榊原病院は輝きを放つ」そして各方面に影響を与え、治療モデル病院の道を歩み続けることになると信じて邁進していきたいと思えます。



電車・バス / 近鉄久居駅下車、三交バス(榊原温泉口駅行)にて約30分。榊原口バス停下車徒歩約10分。
 自動車 / 久居インター(伊勢自動車道)より西へ約20分
 マイクロバス / 久居駅より直通バス(約25分)



トピックス

行事・出来ごと

- 平成31年4月6日、第22回榊原温泉さくら祭りに参加
- 平成31年4月20日、第5回市民公開講座を開催
- 令和元年6月1日、訪問看護ステーション「ゆうはあと」オープン

教育・研修

- 令和元年5月17日、三重県医療観察法ネットワーク研修会開催
- 令和元年5月22日、三重県難治性精神疾患ネットワーク研修会・症例検討会(YOU-C-C)開催
- 令和元年7月2日～5日、第1回CVPPP指導者養成研修会開催予定

榊原病院ホームページ QRコード



地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていただけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和元年5月までに全症例は80例となりました。新規導入は3月2例、4月1例、5月2例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に、認知機能が低下した方、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害のある方は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方にも見られます。身体的な問題については、三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。

一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか？「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」（健康日本21）と言われています。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。

お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

デイケアは毎週、木曜日を除く週4日、北病棟3階作業療法室奥で実施しています。実施時間は9時30分から15時30分です。榊原地区の自然を楽しむ町内散歩や、スポーツ、音楽、アートなど様々な楽しみごとを行います。昼食づくりやお菓子作り、喫茶の会など、実用的な体験もできます。参加者で協力しあって、コミュニケーションの練習も、がんばっています。

参加希望の方は主治医またはデイケア担当者にご連絡下さい。デイケアのパンフレットを外来待合室に置いてあります。また、病院ホームページに月間プログラムもあります。お気軽にお問い合わせ下さい。



（左）金比羅山登山です！（右）院外レクで松阪ベルファームへ行きました。ばら好きのメンバーが認めた一輪。見事なばら園でした。

栄養コラム



《快腸生活を送るための食事の3か条とは？》

あなたは便秘で悩んでいませんか。平成25年国民生活基礎調査によると便秘を訴える人は、男性よりも女性に多く、加齢に伴う腸の動きの低下により男女とも増加し80歳以上ではいずれも10人に1人となっています。便秘を解消する食事の3か条は、「ずばり『便』を「作る」・「育てる」・「出す」ことです。「作る」とは、食物繊維が多く含まれる野菜・果物・海藻・きのこを食べて便のかさを増し、作ること、「育てる」とは発酵食品である納豆・ヨーグルトなどで腸内細菌を育てること、最後に「出す」とは朝食をとることで腸の運動を促し、出すことです。毎日快腸生活を送るためにこの3か条を意識してみましょう。

健康睡眠12ヶ条

第八条 勤労世代の疲労回復・能率アップに、毎日十分な睡眠を！

日中の眠気が睡眠不足のサイン！睡眠不足は仕事の能率を低下させます。「時間がないから」と深夜まで頑張っても、能率が悪くなってしまいます。

試験勉強も、寝ることによって記憶が作られていきますので、徹夜するよりも勉強～睡眠のリズムが大切です。

睡眠不足が続くと、回復に時間がかかります。休日に寝だめしようとする、かえって平日に眠れなくなってしまうし、もともと寝だめはできませんので、要注意。午後の短い昼寝(20分程度)で眠気をやり過ぎ、能率改善！

ただし、いびきがばらばら止まったままのような睡眠時呼吸症候群の人は、これを活さないで日中の眠気が改善しませんので、診察が必要となります。